

酒々井町

郷土研究会会報

第129号

平成20年7月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

千葉氏四百六十余年の

歴史を概観する

浜口 信義

千葉氏は桓武平氏の一族で、将門や彼を討った貞盛、その子孫の清盛、また執権北条氏も同じ平氏に属する。

千葉氏は大治元年(一一二六)常重が上総国大椎郷から下総国千葉郡池田郷に本拠を移して武士団を形成したのに始まる。
天正十八年(一五九〇)豊臣秀吉の小田原征伐による北条氏の滅亡に伴い、千葉氏も四百六十余年の歴史の幕を閉じた。
千葉氏の歴史を大別すると、五期に分けられる。
第一期 興隆と安定
第二期 外圧(蒙古軍襲来)による

分裂と抗争

第三期

千葉氏家臣間の抗争による千葉宗家の滅亡

第四期

本佐倉城の築城と佐倉千葉氏の活躍

第五期

下剋上・群雄割拠により衰退から滅亡

第一期 治承四年(一一八〇)

第二代千葉常胤は源頼朝が挙兵した治承四年当時の領地が千葉郡のみで、相馬御厨(我孫子市を中心にして北は取手市、南は柏市・鎌ヶ谷市の一部)は常陸の佐竹氏に取られていた。頼朝に協力して鎌倉幕府創設に係わり、相馬御厨の回復のみならず領地を東北、九州、四国に拡大した。常胤は猜疑心の強い頼朝に厚く信頼され、また弱小武士団だった北

条氏ともよく連携して内乱を乗り切り、千葉氏の基盤を築いた。以後、千葉氏の流れを汲む者は「胤」の一字を名前に入れており、これは現在も続いている。

第二期 文永十一年(一二七四)

文永の役(蒙古軍襲来)で第七代千葉頼胤が幕府の命令で九州へ下向し、蒙古軍と戦い負傷し翌年死亡した。このため長子の宗胤が九州へ赴き、文永・弘安の役が終わっても九州防衛のため帰国が叶わず、千葉宗家を弟の胤宗に譲った。彼らの子息の間では争いが絶えず南北朝内乱期の建武二年(一三三五)千田庄(多古町)に宗家の胤勢が乱入した。これに対して千田大隅守と称する九州千葉の胤貞勢が千葉城を攻めた。またこの二人は南朝方に胤胤、北朝方に胤貞と分かれて戦い、南朝の新田義貞軍の敗退で胤胤は北朝の尊氏に降伏し千葉宗家は護られた。胤貞は関東へ行く途中病死したので両者の争いは終り、胤貞一門は肥前国小城郡に土着し九州千葉氏と呼ばれた。

今年の郷土史講座「酒々井のあけぼの」は八月二十四日(日)です

第三期 享徳四年(一四五五)

永享の乱(永享十一年―一四三九)

幕府対鎌倉公方の対立は、千葉氏の家臣円城寺氏と原氏との対立抗争に影響を与え、円城寺氏は宗家胤直を擁して幕府側につき、原氏は胤直の叔父の馬加康胤と組んで鎌倉公方につき、宗家の居城千葉城を攻めた。急な攻めであったため、胤直と一門は千田庄の多古城と島(志摩)城へ逃れたが防ぐことができず、胤直父子と弟の胤賢それに円城寺氏一門も自害した。

ここに千葉宗家は滅亡した。

胤直の墓は多古町東禅寺にある。胤賢の子実胤・自胤の二人は武蔵国へ上杉氏を頼って落ちて行った。(武蔵千葉)

將軍足利義政は千葉氏一門の美濃の東常縁に千葉宗家の復興のため関東へ下向を命じた。東常縁は古河公方成氏を攻撃し、また馬加康胤を攻めて上総国八幡で討ち取った。だが、原胤房を討つことができなかった。のち、原氏は勢力を拡大して千葉氏の中で重要な地位を占めた。

(次号へ続く)

芝・増上寺方面を訪ねて

前田 國廣

三月十一日総勢四十二名の一行は、増上寺大門(総門)を振り出しに歩き始めました。大門は名前とは逆に小さく芝の町なかに窮屈そうにありました。それに引き換え三門は威風堂々として、戦災もまぬがれ、江戸初期に大造営された当時の面影を残す唯一の建造物で国の重要文化財に指定されています。私はこの三解脱門と呼ばれる(三つの煩惱、むさぼり・いかり・おろかさ)を解脱する門)三門に深い感銘を受けました。(これも三つの煩惱を解脱し素直な気持ちになったためでしょうか。)



増上寺三解脱門

三門から右前方に歩くと鐘楼堂があり、あまりの大きさに七回の铸造を経て完成した大梵鐘(東日本で最大級といわれている)があります。重さ十五トン、高さ三・三メートル、直径一・八メートルあり、その昔は木更津まで鐘の音が聞こえたといわれました。次に正面の大殿で、ご本尊阿弥陀如来、両脇の高祖善導大師と宗祖法然上人にわずかばかりのお賽銭をあげ参拝しました。

次に、黒本尊(阿弥陀如来)がある安国殿で面白かったのは徳川家の家系図で、十一代將軍家齊が五十五人の子供をつくったことでした。彼は薩摩藩主・島津重豪の娘を御台所としたほか四十人の側室をおきました。御台所との間に子供は生まれなかつたが、側室たちのうち十六人から男児二十八人、女兒二十七人が生まれ、婚期まで育った二十五人は、男子は大名の養子に、女子は大名に輿入れさせたそうです。多くの大名にとつては大変迷惑な押し付けだったようです。鑄抜門で徳川家の六人の將軍と皇女和宮様にお参りをして東京タワーに向かいました。

東京タワーは、四十六年前の高校

二年生のとき修学旅行で来て以来です。あの時行かなかった二五〇メートルの特別展望台にきました。視界は少し悪い状況でしたが、周りを見渡してもここより高いビルはありませんでした。

愛宕神社では八十八段の男坂の急な階段を皆さんと頑張つて一緒に降りたこと。NHK放送博物館では放送のはじまり・歴史・ライブラリー・特別展示など大変興味深く見学し、楽しい充実した一日を過ごしました。

野草観察会

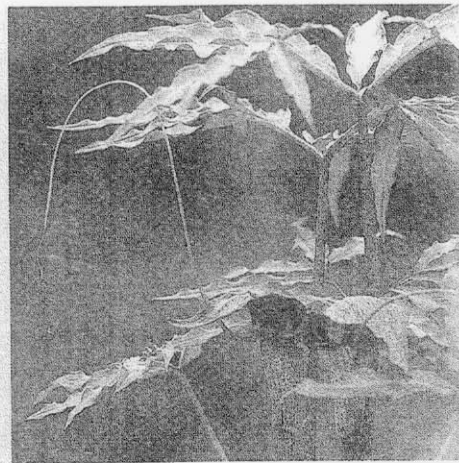
寺本 恵美

前日は寒く雨が降っていたので心配でした。今日は暖かく薄日が射しています。目的地に着くと踊り草がかわいらしく咲いていました。この名の由来は、花の形が踊り子の姿をしているからだそうで、皆さん熱心に観察していました。浦島草・トリカブト・吾亦紅・木通などが密集して生えています。秋にはきれいな花や実がみられることでしょう。奥に進むに従い、湧水があり目を閉じるとサラサラと水の流れる音や

ガアガアと蛙の鳴く声、ホウホケキヨと澄んだ鶯の声、今私たちがどこにいるのかと思うぐらいの静けさ。でも二、三年後にはこの自然も消えてしまうかも？

木々の下ではずかしそうに白い可憐な花「一人静」が咲いていました。ミヤマウズラやキッコウハグマとあまり聞いたことのない草。秋には花が咲くそうで、みたいと思います。「上不見桜」も二、三分咲きできれています。今まで、ポーツと見ていた草花でしたが、一輪一輪はともきれいです。

今日は野草部の皆さんありがとうございました。これからも楽しみにしています。



ウラシマソウ(サトイモ科)

県外見学会に参加して

森田 艶子

台風二号の雨の中、二十六名元氣な顔で集まりました。佐倉インターから伊香保への見学会のはじまりです。水沢観音、坂東札所第十六番五徳山水沢寺は、推古天皇の御代に創建された天台宗のお寺です。六角二重塔、六道(地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・天人界)を守る地藏尊をお祀りしています。六地藏を左に三回転させて罪障消滅・後生善処を祈願しました。元禄年間に建立されたもので県の文化財です。

お昼は水沢うどん。おいしかったのでおみやげに六つ買いました。みごとな山つつじ、八重桜、新緑の榛名神社に、随神門をくぐると七福神像が、つぎつぎとお出迎え。群馬県唯一の三重の塔をながめながら、樹齢千年の矢立杉は天然記念物で武田信玄が箕輪城攻めの折、戦勝祈願に矢を立てたと伝えられています。本殿には、大きな岩が御神体で男の神様とうかがいました。主祭神は火産靈神・埴山毘売神、火の神様・土の神様として厚い崇敬

を受けています。

神幸殿は五月八日から十五日まで神輿が渡御しているあいだ開かれていて、参拝できラッキーでした。

お宿はホテル松本楼へ。こがねの湯に入り、宴会は沢山の料理とカラオケで楽しい一時でした。朝食はバイキングでした。

白岩観音（坂東札所十五番白岩山長谷寺）は文武天皇、朱鳥元年（六八六）に「役行者」によって開基された金峯山修験本宗のお寺です。室町時代に建立された唐破風の本堂があります。本尊は十一面観音菩薩で像高一八七・五センチメートル。平安時代後期の作で重要文化財です。



榛名神社

箕輪城址見学は見学場所に着くと、降っていた雨が止み、本丸・二の丸・三の丸跡を見学。御前曲輪は深い堀で囲まれていたそうです。今は緑の草木に覆われていました。この見学会で一番印象に残ったのは、見事な山つつじでそのきれいな時期に来られたことです。楽しい見学会でした。

「町内史跡巡り」に参加して

安田 徳一

五月晴れとまではいかないが、爽やかな風が心地よく、今日の史跡巡りが楽しいものになるだろうという予感がした。

引率者の丸山正義さんのよく通る声も頼もしく、かなり勉強された様子が手元の手書きの解説書の分厚さと簡潔な解説に反映していた。

最近毎朝約一時間のウォーキングを日課としている。従って今回の酒々井町内の史跡巡りの行先は既に一度訪れている。しかし、史跡についての知識はほとんど無く、解説付きのツアーは本当にありがたかった。

同行した研究会の方に道々咲いている草花の名前を教えていただき、普段何気なくきれいだなと思うだけであるのが、名前を知ることとその印象を確かめている気分であった。

酒々井町にはあちこちで湧水がある由、西井戸もそのうちの一つである。この付近はやぶ茗荷の群生地であることなどは貴重な情報の一つである。蔵・ゼンマイなども多く見られたのも、ふと疎開先で、田舎の山林でひとり歩いた頃を思い出した。

双体道祖神はなぜか酒々井町に集中しているとのこと。

史跡を観光スポットとして取り上げるのは良い考えと思うが、神社・仏像は埃だらけ、石仏は野ざらし、墓石は倒れたまま、というのでは、如何にあるがままを見せるとしても人々が観に来てくれるであろうか。酒の井は唯一整備が進んでいるようだった。

本佐倉城跡の説明から中世の戦争規模が彷彿と浮かび、どの方向から敵が攻めてくるかを予想していたのがわかるような気がした。

将門町に入ると草花が少なくなっ
たような気がしたのは思い過ごしで
あろうか。
自然に恵まれていている酒々井町を史
跡とともにいつまでも保存したいも
のである。



参議院の見学

奥山 利彦

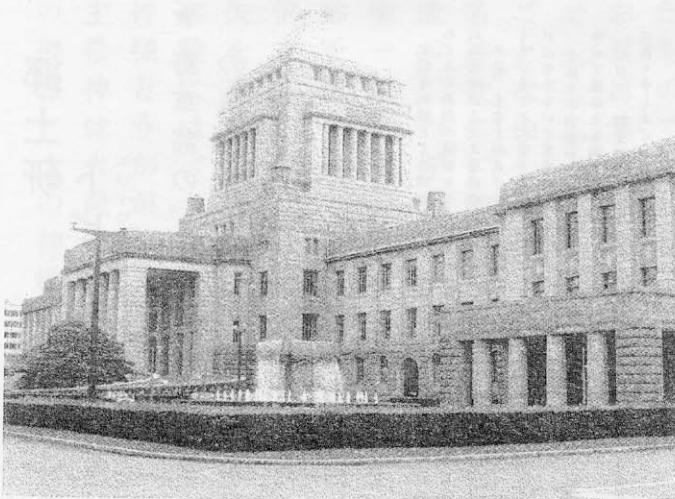
ねじれ国会の梅雨時、会員の皆さ
ん等五十九名と参議院を見学した。
六月四日(水)、京成酒々井駅に集合、
青砥・町屋で乗換え、千代田線「国
会議事堂前」で下車、黒の乗用車が
並ぶ西通用門に到着。本会議が開か
れた関係でしばし待機。

中学生の一団と前後して三階の本
会議場に入る。目が慣れるにつれ、
樺材や赤の絨毯に七十年経過の重厚
さを感じる。天皇陛下の「お席」や
「議長席」などと見学者のために白
い立札を配置している。

意外な説明が二点。
第一に傍聴席の中央に、天皇陛下
のお席が設けられていること。もつ
とも一度もご臨席はない由。
第二に議事堂建設に当たり、三つ
の輸入品があったこと。①ステンド
グラス②ドアの取っ手③郵便物が地
下の一か所で集中回収されるポスト
システム。
議場を出ると党や委員会室がおび
ただしく並ぶ。新人議員は覚えるの
が大変ねと同情の声。ごきゅうしよ
広い廊下があつて「御休所」へ。

開会式の折、ここで天皇陛下が両院
の議長・副議長にお目にかかる。隣
に皇族室。廊下とともにロココ調を
思わせるクラシックな雰囲気がい
い。

次は中央広場。議事堂のトンガリ
帽子の真下で、六階までの吹き抜け。
法隆寺の五重の塔がすっぽり収まる
とか。四辺の角に、板垣退助、大隈
重信、伊藤博文の立像あり。
見学を終え、全都道府県の県木の
植え込みを過ぎると正面出口。
希望者は憲政記念館で昼食と見
学。幸い迷子は発生せず。



郷土史講座のご案内

「酒々井のあけぼの」

八月二十四日(日)

午後一時三十分

中央公民館 研修室

◇ 酒々井には約3万年前から

人が住んでいました。

◇ どうしてそれがわかったの

でしようか。

◇ そのころはどんな生活をして

いたのでしようか。

酒々井町社会教育課の酒井弘志氏に

旧石器時代のお話をして頂きます。

皆様のご来場を

お待ちしております。

春の野草観察会を終えて

野草部

四月二十一日(月)に行い、参加者二十名でした。今回は初めての場所なので楽しみに参加しましたという方々の期待どおり、酒々井中学校の校庭の脇の道を曲がると別世界。ウグイスをはじめ鳥の声とカエルの大合唱に迎えられ、湧水が音をたて

て流れる小道にクサボケのオレンジ色の花を見つけたり、沢山の野草にであうことができました。

総合グラウンドでの昼食後、何か気に入った花はありましたかと質問したところ、「今日のベストスリーは、きれいなブルーのホタルカズラ、ヒトリシズカ、シュンラン」との答えに、参加者全員がうなずいていました。

《観察メモ》

「ホタルカズラ」(蛍蔓)

ムラサキ科

青紫の美しい花はその外見からホタルの光に例えられ、名前の由来となりました。日当りのよい乾いた草地に自生、酒々井にも多く見られます。ちなみに四月の春の観察会では多くの人の好きな花に選ばれました。



郷土研 トピックス!

★ 野草部の「本佐倉城跡とその周辺の植物生態調査」に町長から礼状を頂きました。

本佐倉城跡とその周辺の植物生態調査に対するお礼

本佐倉城跡とその周辺の植物生態調査が一年余りにわたり行われ、この盛めてたく参判の運びと各り心からお礼を申し上げますとともに、調査研究にあたられた皆様方のご芳名に謝意と感謝を申し上げます。早速、本書を拝見させて頂いたのですが、ごん令にも多くの野草が自生していることに驚きを感じたところであり、この自然を大切にしていきたいを付けばをらないと実感いたしました。

今後この調査が、郷土研究会の会員の皆様と町民の皆様が協働して、町内全域で植物生態調査が行われますことを願っております。

結びに、調査研究にあたられた皆様方へ申し上げます。ご発展とご健勝をお祈り申し上げお礼の言葉とさせていただきます。

平成二十年三月二十一日

郷土研究会野草部の皆様へ

酒々井町長

小坂泰久

★ 名勝探訪「国会議事堂方面」見学は参議院開会中のため一時間近く入場が遅れたが、千葉県選出の加賀谷議員と偶然出会い郷土研の皆様にあいさつを頂いた。また議事堂見学を終え憲政記念館で、食後解散したが、折から開催中の奈良葉師寺展の日光・月光菩薩像見学に九名参加した。

郷土研日誌

| 月日 | 内容 | 参加人員 |
|---------|--------------------|------|
| 20・3・27 | 会報印刷 (128号) | 4 |
| 3・29 | 会報発送 (128号) | 16 |
| 4・8 | 県外見学会受付 | 3 |
| 4・11 | 野草下見 | 7 |
| 4・21 | 野草観察会 | 20 |
| 5・13~14 | 県外見学会 (榛名・水沢方面) | 26 |
| 5・18 | 町内史跡巡り (酒々井西方面) | 39 |
| 5・20 | 研修部部会 | 6 |
| 5・28 | 編集会議 | 5 |
| 5・29 | 運営委員会 | 13 |
| 6・4 | 名勝探訪 (国会議事堂方面) | 59 |
| 6・6 | 編集会議 | 4 |
| 6・7 | 史談会 (和田のむかし) | 10 |
| 6・17 | 編集会議 | 4 |
| 6・20 | 編集会議 | 4 |
| 6・25 | 編集会議 | 4 |

残暑の中、大都會のオアシス、緑の別天地、新宿御苑を散策してみましよう。新緑の頃、毎年、皇室主催のお花見(園遊会)がテレビで放映されます。今は、お花が少ない時です。すが、広々としたところでのんびりと昼食をし、公園を散策してみるの

名勝探訪

見学

案内

新宿御苑方面



雨天代替 九月十日(水)
九月九日(火)

もよいと思えます。また、新宿御苑近くの江戸六地藏の一つである太宗寺に寄つて、銅造の地藏菩薩坐像や、もと宿場が近くに地蔵など多くの貴重な仏像がありま

榛名・水沢方面収支報告

(平成20年5月13日~14日)

参加者26名

収入 会費 21,000円
21,000円×26=546,000円
支出 (有)ミヨシ観光 561,970円
諸雑費 19,458円
581,428円
546,000-581,428=-35,428
35,428円 (研修部より補助)

秋の野草観察会

九月三十日(火)

雨天中止

九月末、春の野草観察会で訪れた尾上方面・酒々井中学校の裏の方に

春には葉だけだったトリカブトやツリガネニンジンの花、また、ワレモコウやタコノアシなどが皆様を出迎えてくれることでしょう。

あとがき

梅雨空で降ったり止んだり、鬱陶しい日が続いています。

草木は雨に濡れて艶やかに喜んでいるようです。今朝は小さなアマガエルが部屋の中にびよんびよこ飛び跳ねて、捕物騒ぎでした。

町内史跡めぐりや名勝探訪などへ沢山の皆様のご参加を頂きありがとうございます。ご意見を伺い、ご希望をお寄せください。

今、三ヶ月毎の猫の手も借りたい毎日です。一緒に会報作りをしていただいております。ご連絡ください。お待ちしております。

郷土研行事案内

平成20年7月～9月

| 史談会 | 7 月 休 講 | 8 月 休 講 | 9 月 6日(土) 13:30 中央公民館 会議室 「和田のむかし」⑬ 講師：高橋健一先生 |
|-------|---|------------|---|
| 郷土史講座 | <p>「酒々井のあけぼの」</p> <p>日時 8月24日(日) 13:30開演(13:00開場)</p> <p>講師 酒井 弘志氏 酒々井町社会教育課</p> <p>会場 中央公民館 研修室(2階)</p> <p>後援 酒々井町教育委員会 酒々井町文化協会</p> | | |
| 名勝探訪 | <p>「新宿御苑方面」</p> <p>9月 9日(火) 雨天代替日 9月10日(火)</p> <p>(当日の問合せ 7:00～7:40 寺本まで)</p> <p>参加費 300円(含む入苑料)</p> <p>集合時間・場所 8:20 京成酒々井駅・構内改札口前</p> <p>コース 京成酒々井駅～京成八幡駅…都営新宿線本八幡駅～新宿3丁目 (乗換：丸ノ内線)～新宿御苑前駅…太宗寺…新宿御苑(昼食) …千駄ヶ谷駅～日暮里駅(乗換：京成線)～京成酒々井駅</p> <p>弁当・飲み物・敷物 各自持参ください</p> <p>(14:00頃現地解散予定 一部コース変更の場合あり)</p> | | |
| 野草観察会 | <p>「尾上方面」</p> <p>9月30日(火) 雨天中止</p> <p>(当日の問合せ 8:20～8:50 犬島まで)</p> <p>参加費 100円</p> <p>集合時間・場所 9:25 JR酒々井駅 東口</p> <p>弁当・飲み物・敷物 各自持参ください</p> <p>観察後 総合公園にて昼食 14:00頃現地解散予定</p> | | |